

日 時 平成30年11月22日(木)

場 所 島根県民会館 中ホール

指導者 松江市立第一中学校 教諭 萬波 淳史

1 題材名 日本の伝統音楽の声の出し方の特徴を見つけて歌って伝えよう

2 題材の目標

長唄の声の音色や旋律に関心を持ち、それらによって生み出される特質や雰囲気を感じ取りながら発声や節回しを生かして歌う活動を通して、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する能力を育てる。

3 題材設定の理由

(1) 題材について

第2学年では多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高めることが求められている。また、曲種に応じた発声や言葉の特性を理解し、それらを生かし創意工夫して歌う能力を高めることもねらいとしている。日本の伝統音楽には、曲種によって、固有な発音、発声法、歌唱法が見られる。我が国の伝統的な歌唱の一つである長唄の発声、言葉と節回しとのかかわりなどの特徴を理解し、それらを大切に表現をすることで、歌唱表現の豊かさを感じ取ったり、我が国の伝統音楽を身近に感じたりすることができる。と考える。

本題材で扱う長唄「末廣がり」は狂言の台詞回しや囃子物を取り入れられている。台詞回しが面白く、初めて長唄に取り組む生徒にとって親しみの持てる唄である。発声、言葉と節回しとのかかわりなど長唄の特徴を理解し、自分の持ち声を生かして創意工夫して表現する能力を育てるのにふさわしい楽曲である。と考える。

(2) 生徒について

<個人情報保護のため省略>

(3) 指導にあたって

本題材では、長唄にふさわしい声や言葉の特性に関心を持ち、発声や言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けるとともに、それらを生かし創意工夫して唄うことをねらいとしている。生徒にとって初めて唄う長唄となるためスモールステップを踏みながら指導していきたい。と考える。

導入では、歌舞伎の鑑賞の学習で見つけた長唄の雰囲気や音楽的な特徴を思い起こし、歌唱へとつなげていく。授業で取り上げる長唄「末廣がり」の『籠り出しも～ねんう早かった』の部分は、台詞回しや節回し、唄い尻(節尻)などに長唄らしい特徴が含まれている。また、旋律の動きにも特徴があり節がとらえやすく、初めて長唄を唄う生徒が無理なく取り組むことができると考えた。より長唄らしい雰囲気を出すために、発声をしたり唄い出しの確認をしたりする時には、教師が三味線を弾き、範唱をもとにして声の出し方や唄い方を真似ることから学習を進めていきたい。

また、「末廣がり」のあらすじにも触れ、台詞の掛け合いの面白さや場面を把握したうえで、繰り返し唄い、節を覚えていく。その中で発声や発音、姿勢のアドバイスも入れていきたい。

次に、グループで長唄らしい唄い方を工夫していく。同声であるほうが唄いやすいと考え、男女別の4～5人のグループで取り組む。活動の際には、声の出し方や節回しの特徴を捉える手がかりとして、範唱音源や動画を準備する。教師は各グループを回り、思いや意図が演奏に生かされるよう助言する。中には、音程を掴みづらかったり発声に戸惑いを感じたりし、思い切って声が出せない生徒がいることも考えられる。必要に応じて旋律の高低を手の動きで示したり、一緒に唄ったりすることで唄い方のイメージがもてるように支援していきたい。

そして、それぞれのグループが工夫した唄い方について、提案発表と実際の唄いで友だちに伝えていく。発表の際には、創意工夫について教師が補足したり価値付けしたりする。グループでの活動や全体での発表から気付いたり感じたりしたことについて全体で考えや意見を共有していきたい。

題材の最後には、全員で長唄「末廣がり」を唄う。それぞれが創意工夫したことを生かし、長唄らしく唄いたい。この学習活動を通して、我が国の伝統的な声のよさを感じ取り、我が国の伝統文化に対する親しみをもつことができるように育てていきたい。と考える。

4 学習指導要領とのかかわり

(1) 本題材で指導する事項 A表現 (1) イ

(2) 取り扱う主な音楽を形づくっている要素 音色 旋律

5 教材

長唄「末廣がり」(作曲：十世杵屋六左衛門 作詞：三世桜田治助) から

『^{まか}籠り出しも～ねんなう早かった』

6 評価規準

(1) 領域・分野と評価の観点との関連

| 評価の観点 領域・分野 | ア) 音楽への関心・意欲・態度 | イ) 音楽表現の創意工夫 | ウ) 音楽表現の技能 | エ) 鑑賞の能力 |
|----------------|-----------------|--------------|------------|----------|
| A・歌唱 | ○ | ○ | ○ | |
| A・器楽 | | | | |
| A・創作 | | | | |
| B・鑑賞 | | | | |

(2) 題材の評価規準

| ア) 音楽への関心・意欲・態度 | イ) 音楽表現の創意工夫 | ウ) 音楽表現の技能 |
|---|---|-------------------------------------|
| 長唄にふさわしい声や言葉の特性に関心を持ち、発声や言葉の発音、身体の使い方などを理解して、それらを生かして唄う学習に主体的に取り組もうとしている。 | 長唄の音色や節回しを生かした音楽表現を工夫し、どのように唄うかについて思いや意図をもっている。 | 創意工夫をしたことを生かし、長唄らしく唄う技能を身に付けて唄っている。 |

7 指導と評価の計画（全3時間）

| 時 | 主な学習活動（○ねらい・学習活動） | 教材 | 評価規準と評価の方法 |
|-----------|--|----------------------|---|
| 1 | <p>○長唄にふさわしい声や言葉の特性に関心を持ち、発声や、言葉の発音、身体^{（1）}の使い方などを理解して、それらを生かして唄う学習に主体的に取り組むことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌舞伎の鑑賞の学習を振り返り、長唄の雰囲気や音楽的な特徴を思い起こす。 ・本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>長唄らしい声を出して「末廣がり」を唄おう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が唄う長唄「末廣がり」の一部分を聴く。 ・節を覚えながら唄う。 ・「末廣がり」のあらすじを知る。 ・繰り返し唄う中で、発声や発音、姿勢の確認をする。 ・通して唄う。 <ul style="list-style-type: none"> ・次の時間に追求する箇所を各グループで決める。 <div style="display: flex; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="margin-right: 20px;"> <p>① A</p> <p>② B C</p> <p>③ C D</p> </div> <div> <p>ポイント</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>発声 唄い尻(節尻)…切り方 ユリ…揺らし方 産字…母音の延ばし</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の振り返りと次時の学習の確認をする。 | <p>長唄 「末廣がり」</p> | <p>ア 活動の様子 発言の聴取 ワークシート</p> |
| 2 (本時) | <p>○長唄の音色や節回しを生かした音楽表現を工夫し、どのように唄うかについて思いや意図をもつことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長唄の発声、発音、姿勢に気を付けながら「末廣がり」を唄う。 ・本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>長唄らしい唄い方を見つけて唄おう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「^{まか}籠り出しも～ねんなう早かった」の部分について、グループで長唄らしい唄い方を工夫する。 ・いくつかのグループが考えた唄い方について発表し、実際に唄って伝える。工夫したことを共有して全員で試して唄う。 ・本時の学習の振り返りをする。 | | <p>イ 活動の様子 楽譜への記入 演奏の聴取 発言の聴取</p> |

| | | | |
|---|--|--|------------------|
| 3 | <p>○創意工夫をしたことを生かし、長唄らしく唄う技能を身に付けて歌唱することができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を踏まえて唄う。 ・本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">長唄らしい唄い方を伝えよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループが工夫した唄い方について提案発表し、実際に唄って伝える。 ・各グループでの活動や、全体での発表から気付いたり感じたりしたことについて全体で考えや意見を共有する。 ・全員で「末廣がり」を唄う。 ・感想を書く。 ・学習の振り返りをする。 | | ウ 活動の様子 演奏の聴取 |
|---|--|--|------------------|

8 本時の学習（本時2／3）

(1) ねらい

長唄の声の音色や節回しを生かした音楽表現を工夫し、どのように唄うかについて思いや意図をもつことができるようにする。

(2) 展開

| 学習活動 | 教師の支援 | 評価規準と評価の方法 |
|--|---|-------------------------------------|
| <p>1 長唄の声の出し方、発音、姿勢に気を付けながら「末廣がり」を唄う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の気付きを確認し、「末廣がり」を唄う。 ・本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">長唄らしい唄い方を見つけて唄おう</div> | <ul style="list-style-type: none"> ・視線が上がるように拡大楽譜を準備する。 ・長唄のもっている雰囲気を大切にするために適宜三味線を使う。 ・発音や姿勢など声の出し方について助言する。 ・必要に応じて旋律の高低を手の動きで示したり、一緒に唄ったりする。 | |
| <p>2 グループで決めた部分についてグループで長唄らしい唄い方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ♡ 範唱動画を視聴し、長唄らしい表現を見つける。 ☆ 発声、唄い尻(節尻)、ユリ、産字などに着目して唄いながら工夫する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各グループに範唱音源と動画、拡大楽譜を準備する。 ・気付いたことを楽譜に記入するよう声をかける。 ・各グループの活動の様子を確かめ、気付いた特徴を唄って試すよう促す。 | イ 活動の様子 楽譜への記入 演奏の聴取 発言の聴取 |

| | | |
|---|---|--|
| <p>3 ♡ いくつかのグループが工夫したことを発表・演奏し、それを全体で試して唄う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽譜をスクリーンに写し、工夫したことについて発表し演奏する。 ・発表グループが工夫したことについて全員で試して唄う。 ・工夫したことを共有し、通して唄う。 <p>4 本時の学習の振り返りと次時の学習の確認をする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・グループの思いや意図を聞き、そのことが演奏に生かされるよう助言する。 ・生徒の考えた創意工夫について補足して説明したり、価値付けしたりする。 ・本時の取組を評価し、次時への意欲付けとする。 | |
|---|---|--|

(3) 予想される生徒の具体的な姿
評価の観点

イ【音楽表現の創意工夫】

長唄の音色や節回しを生かした音楽表現を工夫し、どのように唄うかについて思いや意図をもっている。

| | |
|--------------------------------|--|
| <p>十分満足できると判断される生徒の姿の具体例</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・声の揺らし方だけでなく音の上げ方や下げ方、止め方の特徴にも気付いて繰り返し唄って試している。 ・声の音色だけでなく発音や強弱にも着目し、声の出し方を繰り返し試している。 |
| <p>おおむね満足できると判断される生徒の姿の具体例</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・声の揺らし方について範唱音源や動画を聴きながら繰り返し唄って試している。 ・範唱音源や動画から見つけた特徴について意見を出している。 |
| <p>支援を要すると判断される生徒の姿の具体例と支援</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・音程が掴みづらかったり発声に戸惑いを感じたりし、思い切って声が出せない。 <p>→旋律の高低を手の動きで示したり、一緒に唄ったりすることで、唄い方のイメージがもてるようにする。</p> |

(4) 授業研究の視点

- グループ活動を取り入れた課題追求の方法は有効であったか。
- 生徒が唄い方を工夫する場面での教師の支援は適切であったか。